



わずかな記憶

昭和10年から23年春までの記憶…

記憶…これは、私の数え年10歳から23歳の春までの微かな記憶を綴った物語です。

思い出なので不確かな点はお許し下さい

あなたが住んでいたのでは。

「平成20年10月7日、新森～清水地域のまちあるきに参加して」

まちあるきは新森中央公園から、ゆずり葉の道を北にむかって歩きました。

途中で「昔あなたが住んでいたのはこの辺りではないか」と教えて頂きました。

よみがえる昔の記憶とは全く別の場所のようで、マンションや高い建物などばかりで空き地は少しも見あたりませんでした。

当時、私は両親と姉妹3人で新森小路中2丁目79番地に住んでいました。

近くには市場があり、そこを東に入った2,3軒目で、筋向かいの角には美しい3姉妹がお母さんと文具屋さんをしておられました。校区は清水でしたが転校もせず古市尋常高等小学校に通っていました。

昭和12年には日支事変が起こり、同16年には、太平洋戦争が始まり、この間、同14年には枚方の禁野火薬庫の爆発で、当時は理由が解らぬまま真っ赤な夜空に破片のようなものが飛び散るのを不安な気持ちで眺めていたのを覚えています。

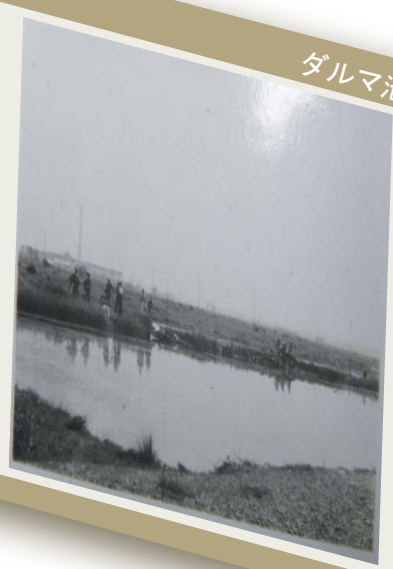
近所には男の子が5～6人、女の子4～5人ほど学校から帰ると、三輪車をつなげて乗りまわしたり、地面に輪をかいて石蹴り、けんぱ、ビー玉にめんこ、縄跳び、ゴムとび、ばい貝まわし、鬼ごっこ、かくれんぼ、戦争ごっこ、綾取り、せっせっせ、着せ替え人形、などなど。小学校6年頃は、くんずほぐれつ、仲良く喧嘩も適当にしながら楽しく過ごしました。お向かいの家庭で日曜学校を開いておられたので、みんなで押しかけ賛美歌を習ったり、お遊戯や演劇もした記憶があります。



少女時代



近くの広場(アシが生えていた)



ダルマ池

あつちと、こつち。

小学校を出て、昭和14年4月には女学校に入り近所の男の子らも中学校へ通うようになると、あれ程親しくしていたのに、道を歩くときは向こうと、こっち、電車に乗るときは前と後ろ、2両連結では、前の車両は男子、女子は後ろの車両と決められていました。当時、京阪電車の「新森小路」駅から京都方面へ乗車していましたが、聖母女学院には専用電車というのがあって、幼稚園・小学校・女学校と可愛い制服のお嬢さん達が、笑いさざめきながら乗っていくのを少し羨ましく眺めていたものです。大阪方面へは、信愛女学校の専用車もあったとのこと。

戦争が激しくなるにつれ、今までの日常生活も徐々に変わってゆきました。隣組というのができて、「とんとんとんからりと隣組、障子を開ければ顔なじみ、まわして頂戴回覧板、助けられたりたすけたり」の歌がはやり、なんでもみんなで助け合っという雰囲気が醸しだされてきました。乏しい物資の補いからか、同じ班の人たちが寄り集まって共同炊事もやりました。これは子供心にも関心十分で、今日はどんなご馳走かななどと、わくわくしたことを思い出します。



淀川

後先は明確ではありませんが、休閒地利用が奨励されそこの空き地はすべて畑になりました。自給自足でさつま芋、馬鈴薯、南瓜、ねぎなど青い葉もの、私は落花生を作ったこともあります。今考えると、どなたの土地だったのでしょね。